

(様式3)

自己評価結果票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
・理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念として「私達は地域に開かれた地域に愛される地域に信頼される施設を目指します。」と掲げ実践している。又、グループホームとしては、「地域で自分らしく暮らし続ける事を支える。」を目標に掲げ、日々、実践している。	
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	月1回の職員会議の場で職員全員で施設理念を暗誦している。又、グループホームにおいても、皆が目の届きやすい位置に掲示し、意識付けしている。	
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	運営推進会議の場で、グループホームの実態や認知症について報告し、理解をして頂いている。	
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	友人・知人等が面会に来られた際には、日常生活状態を説明し、再度の訪問と交流の機会を依頼している。	
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元の知人や友人の面会も多く、地域のボランティアの訪問も日常的に行われている。8/23には恒例の納涼祭が催され、大勢の方が来園され盛況である。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	毎年、北条高校福祉クラブが授業の一環として週 1回訪問して頂いている。6月の文化祭、11月の 交流会の招待を頂くのは恒例となっており、利用 者は大変喜ばれる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 第三者評価を実施する意義を理解し、評価 を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全スタッフが理解されるように一緒に自己評価を 行い、共通認識を持つ様、努力している。又、評 価を活かして改善に取り組んでいる。		
8 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	3ヶ月に1回、会議の場において利用者やサービ スの実際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、その場での意見をサービス向 上に活かしている。		
9 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以 外にも行き来する機会をつくり、市町とと もにサービスの質の向上に取り組んでいる	3ヶ月に1回、加西市の市職員が発足したグルー プホーム連絡会に参加し、その場で情報交換行 い、日々の介護に役立てている。		
10 権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業 や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、 個々の必要性を関係者と話し合い、必要な 人にはそれらを活用できるよう支援してい る			研修等があれば、積極的に参加し学ぶ機会を持ち たい。
11 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	月1回、身体拘束委員会があり、事業所の代表が 集まり、話し合いの場を持っている。又、月1回 の職員会議の場において、研修課題として学ぶ機 会を持っている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約に関しては、管理者を交え、内容を細かく説明し、家族等の不安・疑問点を尋ね、分かりやすい言葉で説明し、理解を得ている。</p>	
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日々、利用者とのコミュニケーションを大切にしている。月2回、あったか相談員さんの来訪あり、利用者の方々と会話を持たれる。</p>	
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	<p>年4回の「たんぼぼ便り」や面会時に利用者の様子を報告している。又、介護サービス計画時において家族に様子を報告し、意向・要望等も尋ねている。</p>	
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>グループホーム内に「苦情申し出窓口」の設置についての説明書も掲示している。又、日々話しやすい雰囲気作りに努めている。</p>	
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月1回、職員会議の場において意見交換を行っている。又、「大きな事から小さな事まで皆で考えましょ」という掲示板で話し合いの場を持っている。全員で話し合い、解決策を考えている。</p>	
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>時間制限なく、24時間いつでも対応出来るように勤務調整が可能である。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>利用者の方へ異動になる事の説明、そして、新職員の紹介を利用者全員の前で行い、不安なく対応している。</p>		
5.人材の育成と支援			
<p>19 職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>月1回の職員会議でグループホーム内での話し合いを行うと共にスタッフの掲示板を設けて疑問点があれば随時、全員で話合っている。(その他)法人内外研修等がある時は、参加させて頂いている。</p>		
<p>20 同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>3ヶ月に1回グループホームの代表者が集まり、連絡会前に話したい議題を提案し、その内容について意見交換している。(グループホーム連絡会)</p>		
<p>21 職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>親睦会での食事会や旅行等への行事参加があるが、ストレス軽減に繋がっているかは、分からない。</p>		
<p>22 向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>法人目標(経営理念・経営方針)を掲げて、毎年グループホーム目標を全スタッフで考え、取り組んでいる。又、各利用者の担当を決め、個々のプランニングを活かしている。</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	利用開始前にスタッフが利用者又は家族に面会し、信頼関係を築く努力をしている。	
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	何か相談・疑問等があれば、いつでも連絡して頂けるよう、その都度、声かけしている。	
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	利用者・家族・担当ケアマネが話し合いの場を設定し、支援している。	
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	利用開始前に施設見学やスタッフが利用者と面会している。又、事前に生活記録表等を記入して頂き、利用者が1日も早く馴染んで頂ける様、工夫している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	昔からの風習・慣習を利用者の方から学ぶ事も多く、料理の中でも梅干作り、野菜作り等も教えて貰っている。又、6月よりウサギを飼い始め、飼育等も共に行っている。(利用者から積極的にエサを与えている。)	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	<p>利用者を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に利用者を支えていく関係を築いている</p>	6年前から企画している年2回の家族との交流会(外出)を計画し、ほぼ全員参加して頂いている。面会時には、その都度、状態報告している。	
29	<p>利用者と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの利用者と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	私達が提供しているのは、住まいとサービスと心の支えであり、利用者が最も落ち着く本来の場所は家族さんですよ、と常日頃から説明している。	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>利用者がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	誕生日や行事用、お菓子等の食材購入の為、近くのスーパーへ出かけている。そこで、知人に会い交流している。外食は知人の店を利用している。又、併設に馴染みの方が利用されている時は、出合いに行くきっかけ作りをしている。	
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	余暇活動の場を毎日取り入れると共に利用者同士がコミュニケーションを図っておられる場は極力見守るようにしている。	
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている</p>	何か相談等があれば、連絡又は来園して頂くように声かけしている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1.一人ひとりの把握			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者からの意見はしっかり傾聴し、スタッフ全員で話し合い、可能な限り、希望に添うように対応している。又、介護サービス計画作成時には、希望・意向の把握に努めている。</p>	
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>家族や知人の方に入所前の暮らし方を尋ねたり、生活歴を確認すると共に利用者をよく理解し、得意な事を一緒に行ってもらうように援助している。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>個々の毎日の状態・1日の過ごし方については、週間ケアチェック表に記入し、スタッフ全員が把握出来るようにしている。(色ペンを使い分けする事で申し送りに変化を付けている。)</p>	
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>何か変化が起きた場合は即、スタッフ全員でカンファレンスを持ち、話し合っている。又、利用者・家族共話し合いながら作成し、出来ている事は継続して頂けるような介護サービス計画を作成している。</p>	
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>変化が生じた場合は、家族・看護師・医師等に相談、助言を頂き、現状に沿ったサービス計画の立案に心がけている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態を毎日細かく、週間ケアチェック表に記入し、特に申し送りの必要な状態の方については、介護日誌に記録している。直接、介護サービス計画の見直しに役立つ様、原本に記入している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 利用者や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療処置を受けながらの生活維持や24時間体制での健康管理はもちろんの事、週に何度か嘱託医の往診がある。悪くなって受診するよりも週何度か診て頂く事で、医療予防にも繋がる。又、夜間の応援体制も整っている。又、馴染みの利用者が来られている時等は、デイサービスへ交流に行く。		
40 地域資源との協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	月2回、あったか介護相談員の方が訪問に来られ、又、毎年1年間近隣の高校生が授業の一環としてボランティアに来られている。		
41 他のサービスの活用支援 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	他のサービスを利用するための支援は現在の所、行っていない。		
42 地域包括支援センターとの協働 利用者や家族等の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議、グループホーム連絡会の場で市の健康長寿課の職員との連携は図っている。		今後、必要性に応じて、地域包括支援センターと協働していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	併設内にそれぞれ専門の嘱託医がいらっしゃいますが、家族等の希望に合わせ、他の医療機関への受診もして頂ける様に配慮している。	
44	<p>認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	介護保険証更新時や変更時等においては、長谷川式を利用して認知症の判断を行い、それぞれの方に合ったサービス等を行っている。又、地域の精神科開業医も電話にて相談して頂ける。	
45	<p>看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	併設の特養に看護師が勤務されているので、その都度、健康面の相談を行い、助言・アドバイスを頂きながらサービスに繋げている。	
46	<p>早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	入退院時を含め、全職員が状態を把握し、医療機関との連携を図っている。	
47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	週末期に関しましては、利用者・家族の意向を尋ねている。又、かかりつけの医師と相談し、一人ひとりの方針を全スタッフが把握している。1人の利用者の方には看取り介護についての同意書の記入をして頂き、保管している。	
48	<p>重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	終末期での酸素療法、点滴等の必要性を十分家族に説明し、理解・承諾を得た上で、併設の特養と連携している。緊急時における携帯酸素の提供や医師の指示のもと、点滴も可能である。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>利用者が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1.その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	一人ひとりのスタッフが声かけに対する意識を強く持っている。又、個人情報施設内で保管し、外部に持ち出さないよう、徹底している。	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	一人ひとりの利用者の希望・要望に添えられる様、スタッフ全体で話し合いを行っている。	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	毎日の暮らしの中から変化を加え、利用者の行きたい場所を尋ね、外出として買物やドライブ、外食等取り入れている。又、利用者の得意な事を見つけ、事前準備をした上で共に行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	毎日、その日の気分によって利用者が衣服を選んでおられる。中にはスタッフが尋ねて衣服を選んでおられる方もいらっしゃる。又、月1回、外部より理容師が来られる為、希望者のみ利用して頂いている。行事の日はお化粧をされる利用者もいらっしゃる。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	<p>得意な利用者の方には、食事の準備のお手伝いをして頂いている。又、一人ひとりの利用者の嗜好を尋ね、お誕生日には赤飯とそれぞれの方の好きな物を出来る限り用意し、希望に添って提供している。</p>	
55	<p>利用者の嗜好の支援</p> <p>利用者が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	<p>10時のお茶は利用者の飲みたい物を提供している。又、おやつも一人ひとりの嗜好を尋ね、出来る限り希望に添うよう、手作りおやつを提供している。今年は利用者の希望として梅干し作りとらっきょ漬けを行っている。</p>	
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	<p>利用者の排泄リズムを見極め、利用者のいつもと違った行動等から読み取り、静かに排泄誘導を行っている。又、定期的に声かけを行い、確認をさせて頂いている。</p>	
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	<p>現在、週3回入浴を実施している。熱い湯が苦手な方は相談し、後から入って頂いたり、熱気で疲れやすくなるから、との事で最後を希望される方等、日々の状態を考慮し、又、意見を尊重しながら支援に努めている。</p>	
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>	<p>就寝時間といった規則はなく、眠たくなれば居室へ戻られ休まれている。又、中々寝付けられない方にはテレビを見て頂いたり、お茶を飲んで頂いたり、スタッフとコミュニケーションを図って頂いている。足が冷たく寝付かれない利用者には、足浴も行っている。</p>	
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	<p>日常生活から一人ひとりの得意な事を見つけ、事前に準備した上でスタッフと共に行っている。 (洗濯干し・たたみ・うさぎのお世話・野菜作り・掃除・レクリエーション・歌等)利用者の希望で梅干し作り、らっきょ漬けを行っている。</p>	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、利用者がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を持っておられる方は外出の際、自分で支払っている。所持の困難な方については、外出した際、支払いはスタッフ確認のもとで行っている。又、利用者自身の身の回りの物品については、家族と相談の上、出来る限り、利用者に購入して頂き、スタッフが共に支援している。預かっているお金はその都度、出納帳に記入している。		支払い能力が低下されている利用者については、スタッフが支払う事が多くなっている。お金がない、と不安を訴えられる利用者には、預かっている事の説明と必要に応じて残金を共に確認して頂いている。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々、利用者の生の声を大切にし、「外に出たい」「何か買いに行きたい」との声が上がれば、買物・ドライブ・喫茶店等に出掛ける等の対応をしている。又、利用者自身の日用品についても家族と相談の上、買いに外出している。		外出の際は必ず家族に連絡し、承諾を得るようにしているが、その日すぐに行きたい、と話される利用者に家族に連絡を入れるが不在の場合がある。そのような時は外出出来ない。利用者の希望にいつでも対応出来るよう、考えていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	年2回交流会として家族と利用者との外出を計画し、共に過ごして頂いている。遠方の場合は希望者のみ、出来る限り希望に添えるよう、援助している。(9/11には神戸市の花鳥園に外出予定である。)		昨年より「一泊でどこかに行きたい」との声も出始めている為、実行できるように計画を立てて行きたい。
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に利用者自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	特養と併設の為、施設中央に公衆電話が設置されており、利用者の方は利用されている。少し距離もある為、行かれるまでが困難な方については介助している。又、施設玄関前にはポストが設置されており、手紙を書かれた際には投函される利用者もいらっしゃる。		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、利用者の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	24時間いつでも面会出来、玄関では入った時からゆっくりと落ち着いた時間を共有して頂けるよう、オルゴール(CD)を流している。日中は鍵をかけていない為、家族・知人の方も自由に入って来られる。又、玄関先ではうさぎが出迎えてくれる為、癒しの空間になっている様に思う。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月1回、各部所の代表が集まり、身体拘束禁止について話し合っている。(チェックシートを作成し、×で記入している)その内容を用いて毎月の職員会議の場で発表し、スタッフ全員で再度、身体拘束ゼロケアに取り組んでいる。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関は鍵をかけず、各居室・廊下等も災害時の非常ドア以外は常時、開いている。	
67	利用者の安全確認 利用者のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日々、利用者の状況を把握し、歩行時には靴はしっかり履けているか、杖を持っておられるか等、スタッフ全員が一つひとつ確認し、安全に心がけている。夜間は、1・2時間間隔に各居室を巡回し、少しの物音にも気配りしながら見守るようにしている。	
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物忘れのある利用者には説明し納得された上で、はさみや縫い針等、危険な物については預かり、必要な時に使用して頂いている。又、居室にまな板や包丁を持参されている方については、衛生面と危険性を理解して頂き、食堂の台所の使用をお願いしている。	
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒・ヒヤリハットについては、各部所の代表がリスクマネジメント委員会で集まり、話し合っている。又、その内容を月1回の職員会議の場で発表し、スタッフ全員で再確認している。又、利用者の少しの変化・気付きがある時は、掲示板に記入し、スタッフ間で話し合いしている。	窒息や誤薬についての勉強会は行っていない為、知識が乏しいように思う。勉強会等の場も検討していければ、と思う。
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	携帯用酸素の使用方法を併設の看護師より教わり、スタッフ全員が保管場所と使用方法を理解している。又、急変・事故発生への対応については、マニュアルを作成しており、随時確認出来るようにしている。	応急手当や初期対応の訓練については定期的に訓練は行っていない為、再確認していきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	自衛消防組織が構成されている。法人全体でも避難訓練を実施している。又、グループホームにおいても3ヶ月に1回、夜勤者のみの想定や出火場所を変更しながらの訓練を行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72 リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて 家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大 切にした対応策を話し合っている	利用者個々の状態・状況を説明し、リスクを伴う 利用者にはスタッフ間で十分話し合い、快く暮ら して頂けるよう、配慮している。法人のリスクマ ネジメント委員会にも参加し、話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に 努め、気づいた際には速やかに情報を共有 し、対応に結び付けている	週間ケアチェック表と介護日誌から異常や変化が 見られた時は、速やかに話し合い、早期対応に努 めている。常時、表情観察をスタッフ全員が意識 し見守っている。		
74 服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副 作用、用法や用量について理解しており、 服薬の支援と症状の変化の確認に努めてい る	各自、お薬手帳を持っておられ、用法・用量・目 的等、人目で分かる様になっている。又、薬は利 用者に手渡し、確実に服用される様、見守ってい る。変化のある時は、主治医に連絡し、相談・助 言を頂いている。		
75 便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防 と対応のための飲食物の工夫や身体を動か す働きかけ等に取り組んでいる	水分補給を促したり、腸に刺激を与えるような運 動を行っている。又、食事面でも消化の良い物や 食物繊維を多く摂って頂く等、工夫をしている。 又、排便記録を付け確認を行っている。		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、 毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じ た支援をしている	毎食後、義歯洗浄とうがいをスタッフ見守りの 中、行っている。週3回(日・火・金)、就寝前 にポリデント消毒を行っている。		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとりの状 態や力、習慣に応じた支援をしている	併設の管理栄養士が献立を立てており、アレンジ 等行っている。10時のお茶は「たんぼぼ喫茶店」 と名前を作り、好みの飲み物を提供している。ケ アチェック表に食事量と水分摂取量を記入してい る。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肺炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルの配布と説明を受けている。手洗いやうがい、入浴後の六つ ハップを行っている。軟膏塗布時には、使い捨て手袋を使用している。		
79 食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日の食材を近隣のスーパーより配達して頂いている。台所・調理用具はその日の食事当番が丁寧に洗浄し、食器乾燥機で乾かし、衛生管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
80 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関周りには沢山の花や植物を栽培し、華やかで明るい雰囲気を作っている。花の水遣りや手入れ等もスタッフと利用者が共に行っている。		
81 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	運営推進会議のメンバー(家族)より助言で玄関先に利用者が集っているので、音楽等、流してはどうか、との事で、オルゴールを毎日流している。又、共有スペースの広々とした窓ガラスからは中庭の芝生や洗濯物が干してあるのが見え、家庭的な雰囲気を作っている。		
82 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関先にベンチを設置しており、利用者同士が日光浴をしながら楽しく会話をされている。又、各居室には、椅子があり、気の合う利用者同士が思い思いの時間を過ごされている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや机、椅子、家族の写真等、馴染みのある物を使用されている。お茶碗・お箸も利用者の好みの物を使われ、それに合った食器も陶器に揃えている。		
84 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	毎日の掃除時には換気を行い、各居室のエアコン調節も利用者に温度を尋ねたり、スタッフが直接温度を肌で感じる等、こまめに対応している。共用空間においてもこまめに調整し、気配りに心がけている。		
85 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・浴槽は必要な箇所に手摺りを備え付けている。浴槽の中、洗い場には滑り止めマットも床全体に面した大きなマットを使用している。		
86 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	出来る事は利用者にして頂き、出来ない部分は見守り、そっと手を差しのべるといった介護を常日頃、全スタッフが心がけている。		
87 建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関先にはベンチが設置しており、天候の良い日は日光浴をしながらお茶を頂く等、楽しまれている。又、中庭はミニ畑を作り、旬の野菜を栽培し、収穫する事を利用者が毎日楽しみにされている。		

( 部分は第三者評価との共通評価項目です)

. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を 印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)